

## 日本人チューター学生の異文化接触体験（2）

：その役割と異文化交流に関する質問紙調査

田 中 共 子

### 要約

新渡日留学生の生活・学習の補助役を担う学生チューターは、留学生との関係性の構築を通じて異文化接触を体験する。彼らの異文化接触体験について、主に異文化間教育および異文化間心理学的な視点から質問紙調査を行った。まずチューターとして実施した援助、やってよかったこと、困難について尋ねた。そして留学生との対人関係の成立とその位置づけ、その困難の原因認知、ソーシャル・スキルの要求水準と学習意欲、現実的サポート提供と潜在的サポート提供などについて尋ねた。ここでは単純集計の結果を報告し、先の調査とあわせて若干の考察を行い、教育的な示唆を探る。

### 【序】

日本の国立大学では新渡日留学生の生活・学習の補助役として、半年ないし1年間大学院生・学部生を雇用し、学生チューターと称している。これはその任を担った日本人学生にとっても、貴重な異文化接触体験であり、少なからぬ教育的意義を持った機会になっているものと思われる。今回、彼らの異文化接触体験について、主に異文化間教育および異文化間心理学的な視点から質問紙調査を行った。ここでは素集計結果を報告し、先の調査を参照して若干の解釈を添えて、教育的指導のための示唆を探ってみたい。

本調査に先立って、同じ大学でチューター体験者に面接調査が行われている（田中、1995a、1996；田中・高井・神山・藤原、1996）。彼らによるチューター体験の報告では、以下のような内容が語られている。①チューターの実用的意味：日本語未習熟者の補助、②チューター体験における困難：初の体験、情報不足、システム未整備、コミュニケーション障害、③チューター期間中の楽しい体験：レジャー、交友、④異文化間教育的な学習：文化学習、異文化接触に伴う相互理解・葛藤解決の演習、ソーシャル・スキル各論の実習、文化の仲介機能、⑤自己の成長：日本社会の再確認、自分自身を振り返る機会、⑥チューター体験の成果を左右すると思われるもの：モチベーション、パーソナリティ、⑦チューター制度に関する希望：システム整備。

彼らの話の中から、「チューター体験による成長」を見いだすとすれば、以下のようなという。第一に社会的側面としては、外国の生活事情や価値観について実感を伴って知る、視野が広がることがあげられている。日本社会を見直す価値観の転換が起きる。習慣や社会の仕組みに対し、留学生の視点との同一化による問い直しが行われ、「日本人とつきあうより面白い」ほどの発見、刺激が得られる。そして交友半径の広がりから、より広い

知識が獲得される。

第二に、異文化間教育的側面としては、知識面、情緒面、行動面の体験的・総合的学習があげられる。習慣の違いについての具体的で個別的な事例から、「知識」が得られる。気後れ・勇気など情緒部分のコントロール、興味、高揚、意欲、異質さへの不快や怒りの低減、予定通りいかないことへのいらだちへの耐性が、「情緒」の側面である。個別スキルの知識、社会的文脈での的確な受信・発信などが、「行動」の面である。

第三に、人格的成長の側面があげられる。内的成長、能力の向上、動機付けの高まりがみられる。多様な価値観を持った、人間的に興味深い人たちとの邂逅による内的成長が生じる。寛容さ、思いやり、勇気、積極性などの獲得、計画・実行・準備などのオーガナイズ、現実対処能力などの有能性の向上、交流、学習への動機づけの高まり、援助対象としての留学生へのボランティア活動としての意義、対人関係が相方向性になった場合には対等な人間から学ぶ意識などが発生する。

これらからすると、学生チューターの異文化接触体験は、かなり心理的および教育的意義の深い体験であることがわかる。

学生チューターと留学生との二者間の関係については、関係の深化に伴って、ソーシャル・サポートの双方向性の授受が報告されている。チューター契約を介したこの関係においては、初期には日本人学生が援助者の供給側として設定されているが、日本人学生・留学生ともに最終的にはサポートの供給側と同時に受給側となっている。ただし対人関係の深まりがみられない場合は、表面的で一方的な補助業務に終始する傾向があるという。つまり援助関係を割り当てられただけではなく、そこから人間関係を深め、より多くを学んでいくには、二者間の関係性の深まりをどう進めるかが課題になると解せる。

また対人関係形成に伴って、相手文化の理解と吸収が生じ、対人行動の変容が起きて、ソーシャル・スキルが学習されることも確認されている。ソーシャル・スキル学習は、異文化間の対人関係成立のきわめて重要な要件であるといわれる（田中、1995b）。つまり関係性の深まりには、ある程度の異文化間ソーシャル・スキルの実施が必要になるのであり、学生チューターも留学生という異文化圏出身者との対人接触を通じてソーシャル・スキルを学習しているということである。上記の調査では、学習されるスキルは以下の3種類に渡ると述べられている。

まずは、異文化性への知識と理解、異文化性への配慮を伴った判断と行動としての、「①文化特定スキル」。次いで、異質な者との交流一般に必要な事柄、例えば対話の重要さ、否定的な帰属に短絡しないよう注意することなどを含む、「②異文化接触一般スキル」。そして、より一般的で、文化に特定されない対人関係構築の際の要領としての、「③文化一般スキル」である。

異文化間教育として考えた場合、上記の①は、異文化に対してはだれしも最初は欠損しているから、誰にでも付加的に補う必要があるスキルだという。そして、②は特

に異文化接触の初心者向けに、③は異文化移行以前から対人接触が苦手な場合のために、学習機会が提供されるのが望ましいと提案されている。

対人関係の形成は、異文化適応を左右する要因であるという (Tanaka, Takai, Kohyama, Minami & Fujihara, in press)。異文化接触体験者としての学生チューターにその関係性のありようを尋ねることは、ゲストの異文化適応に際しての対人関係形成相手である、ホストの側から、その関係性の実態を確認することでもある。その要件としてのスキルの実施や要求度合いについて調べることは、成立の条件や促進方略を明らかにし、適応を促す介入についての示唆を得ることに通じる。

先に行われた面接による質的調査は、少数例を対象にチューター体験の意義をパイロット的に探ったものである。次の段階としては、多数を対象とした実態調査を施行し、全体像を把握することが必要になろう。先述のような意義や傾向は、体験者全体にどの程度認知されているのだろうか。また異文化間の対人関係形成をホスト側から評価し位置づけた場合は、どのような実態が反映されるのであろうか。本稿では、これらについての第一報として、基礎的な集計結果について述べておこう。

### 【方法】

調査方法：1996年2～4月にかけて、郵送法による質問紙調査を行った。往信は学内便によって配布し、返信には返信用切手を貼った封筒を同封して郵送を依頼した。希望者には集計結果を返送し、お礼の文具を同封した。結果返送を希望した者は73人（回答者の62.9%）。

調査対象者：1995年後期および1996年前期に、さる国立大学で留学生のチューターとして雇用された日本人学生248人。送付した質問紙のうち、返送された116通（回収率46.8%）を解析の対象とした。なおチューターに留学生が任命されていた場合は、ホスト国学生の異文化接触体験としての意義に焦点化する意味で、今回の調査対象からは外した。なお属性については表1参照。

質問紙：ふりがな付き日本語版と、バイリンガル二人による翻訳を行った英語版を用意した。項目は表1参照。デモグラフィック要因に関する項目と適応関連の項目(Q 8、Q 9)は Tanaka, Takai, Kohyama & Fujihara (1994a)、ソーシャル・サポート・ネットワーク関連の項目(Q11、Q17、Q18)は Tanaka, Takai, Kohyama & Fujihara (1994b)と田中 (1995b)、対人関係の困難に関する原因認知関連の項目 (Q14) とソーシャル・スキル実施と学習ニーズに関する項目 (Q12、Q13) は田中 (1995b)、つきあいの親密度に関する項目 (Q10) は井上・田中・鈴木 (1997)、ソーシャル・スキル関連の項目 (Q16) は 田中・藤原 (1992) をもとにした。チューター体験の評価に関する項目は、田中 (1995a) を参考にして作成した。

## 【結果】

素集計結果を表1に示す。Q19の自由記述の結果については、表2に示した。なお自由記述部分に関しては、プライバシーに関わる部分など一部を省略・変更しており、記述の分かりやすさなどに配慮して若干の修正を加えてある。主な結果は以下の通りである。

まず「チューターとしての援助内容」については、実施が多かった項目を順にあげると、手続きの補助、話し相手、日本語の指導、勉強の手助け、日本文化の導入役までを半数以上が行っている。次いで半数以下が体験した内容であるが、遊び、生活情報の提供、通訳、付き添い、引っ越し手配があげられた。

「やってよかったと思うこと」を、あげた人数が多い順に記すと、外国に触れたこと、楽しんだこと、日本の再認識、役立った充実感、自分の成長、語学力向上となる。

「困ったこと」を評定の高い順にあげると、第一に言葉、次いで文化差である。その後に情報不足、過大な要求、共通性のなさ、相性と続く。ごくわずかに、信用されないことというのが最下位にある。

現在の留学生とのつきあいについては、個人的に親しいつきあいをしている者と、一般的な話をする程度の者とは、半数弱ずついる。持っているソーシャル・ネットワーク6.58人のうち、外国人は0.52人である。そのネットワークから受け取っているサポートは、相談、楽しみ、情報のサポートが多い。留学生に自分が提供しているサポート（現実的サポート供給）は語学や文化、相談関係が多い。留学生に提供してもよいと思うサポート（潜在的サポート供給）は文化や情報を中心に、「やや・非常に」サポートしたいとする答えが目立ち、拒否的な答えはわずかである。

「留学生とつきあうときのソーシャル・スキルの取り入れ」は、「やや・非常にやる」者が6割あまりにのぼる。4割あまりが、スキル学習の機会があれば参加したいと答えている。日本的なソーシャル・スキルについては、特に調和的な歩み寄りを求めるスキルに関して実施要求が高く、日本的行動様式の遵守的な項目に関しては、要求水準は高くない。

留学生との対人関係の困難の原因としては、自分の外国語力不足と多忙さへの評定が高い。

## 【考察】

チューター体験についての評定をまとめると以下ようになる。滞在初期の生活を軌道に乗せる段階で、外国語である日本語で書かれたたくさんの書類を処理する「手続きの手伝い」は、最も重要な活動と思われる。また日本人の最初の友人としての身近な存在感は、「話し相手」という役割に見て取れよう。日本語や日本文化へのいざない役としての意味あいの強さも確認される。

ところで同じ大学で先立って行われた調査（田中・田畑、1991）では、留学生活での大

きな問題として、日本語、勉強、文化・習慣の違いに基づく社会生活上の困難が多くあげられている。チューター活動として、社会や学内の仕組みに関する補助や日本語、勉強の援助があげられたという結果は、こうした留学生の困難に対応している。すなわち、留学生にとっての重要な問題を援助する役割を果たしていたことが確認される。

なお先の調査では滞日期間の長い学生も含めて、学内の全留学生を調査対象としていた。重要な問題に対する解決方法は何かという設問では、おおむね個人の努力という答えが目立ち、人の助けとした者は少なかった。初期の困難を過ぎれば、自力で解決方法を探る姿勢が身についていくのかもしれない。

体験の肯定的な側面として何を認知しているかをみると、まず外国への興味が満たされたことがあげられる。そして友達づきあいとしても、楽しい経験であるように見受けられる。ただし語学力が身につくといった効果は、4人に1人程度と意外に少ない。この原因として、一つには留学生のほとんどが英語のネイティブではなく、また中国など東アジアの出身者が多く、日本語がわりと得手だったり、英語をさほど得手としない場合も多いことが考えられる。なおこうした出身地域割合は、全国的な傾向である (Tanaka et al., 1994)。日本人学生がある程度使える外国語は英語が多いであろうから、日本人学生にとっては、英語以外の言語については使用してみようとするこも、あえて留学生から習おうとするこも少ないのかもしれない。また日本語の指導をする者が6～7割いたことからも、留学生は外国語会話をするより日本語を学びたがっており、日本人に外国語を教えるような余裕があまりないのかもしれない。

任期中の困難の第一位が言葉というのは、外国語に対する苦手意識と矛盾しない。ただし実数では半数あまりの人がこの項目をあげただけで、言葉を困難としなかった者も半数近くいる。つまり半数は困るが、半数は言葉には困らなかったのである。言葉については、必ずしも困らないと考えてもよいだろう。

体験の意義をまとめると、まずは楽しく外国に触れる機会であり、異質さゆえに助け合ったり学んだり困ったりもする関係といえよう。また同じ学生そして人間同士として、個人的な対人関係を形成する。そのため、人間関係としてのごく基本的な困難や楽しさも内包されたものになる。そして、この個人的な関係を起点として、外国に触れ日本を認識する広がりが生じている。任期中には葛藤はあるが、結局援助の目に見える効果や学習実感による充実感が残ったと思う者も多い。

現在持っている異文化間対人関係としては、その相手は担当した留学生やその友人、あるいはその他で知り合う機会のあった留学生であろう。普通の日本人学生に比べれば留学生とつきあう機会には恵まれているといえようが、それでも特に親しくしている留学生はいないと答えた者もいる。担当留学生がすでに転校、卒業したか、あるいはつきあいが途絶えたかしている可能性もある。知人にはなっても、重要な人物としてソーシャル・ネットワークに入る程のつきあいができるかどうかは難かしいのかもしれない。ただし留学生

にサポートを提供したいとする意欲は高い。潜在的なサポート供給源として、今後の活性化の可能性に期待したい。

求めるスキルは、ホスト側への態度に関する希望とみてもよい。ゲストが背景としてどんな文化を持っているにせよ、友好的でいてくれるのが最も歓迎するところなのであろう。関係性成立を妨げているものとして注目が高いのは、まずは自分達の「機会」や「道具」（コミュニケーション・ツールとしての外国語）の欠落である。解決のためには、能力向上と交流機会の設定という、教育的な営みが効果的という示唆が得られる。

交流の要領を尋ねたときにも、とにかく機会を作ってほしいという要望がみられた。交流には自分からの積極的な働きかけが大事だった、というアドバイスも多い。交流の開始に踏み出せない内気さを持った日本人学生には、抵抗なく自ずと接していけるような環境を用意する、環境調整の役割は大きいものと思われる。

また自身の英語力は、「日常生活のこなせる中級以上」と考える者が9割近い。従って、実際に語学能力が不足しているというよりは、苦手意識という心理的な次元からみることもできよう。外国語使用の不安の低減などに焦点化した、異文化間教育的な語学訓練（八島・田中、1996）も効果的と思われる。

今回は外国人と特に接触経験を持った学生を対象としているが、一般の日本人学生に外国人との接触で気を配るべきことは何だと思いか、と尋ねた報告がある（高井・田中、1993）。まずは積極性が必要ということは意識しており、明確な意志疎通が必要になると理解している。さらに自然体、相手文化への同調、日本文化の理解・尊重を求めること、細やかな配慮などもやはり意識している。異文化接触体験の結果、語学などの具体的なツールの役割を含めた、こうした要素に対応する具体的な実施の方法が理解されていくものと思われる。

なお留学生からも、大学に望むこととして、日本人との交流を進める諸活動をしてほしい、国際交流を進めてほしいといった要望が寄せられている（田畑・田中、1991）。

交流の要領や工夫については、内容分類的には、先の面接調査（田中、1995a、1996；田中ら、1996）にほぼ即しているように思われる。ただし多様な具体例があげられたので、後進の教育的指導に役立つものと思われる。本稿ではチューター体験者の異文化交流の実態をながめてみたが、今回の結果を留学生による同様の調査の対象データと比較して、その差を検討する方向が必要である。

### <引用文献>

井上孝代・田中共子・鈴木康明 1997 第5章・留学生と日本人の混合グループに対する心理教育の試み：WAKSASモデルの提案 井上孝代（編）「異文化間臨床心理学序説：留学生カウンセリングの展開」 多賀出版

高井次郎・田中共子 1993 日本人学生の社会的行動：留学生のための日本的ソーシャ

ル・スキル指導へ向けての予備調査 教育学研究紀要 39 (1)、 340-346

田畑佳則・田中共子 1991 広島大学における留学生教育の課題と展望：留学の動機を中心に 広島大学留学生センター紀要 2、 43-63

田中共子 1995a 日本人チューター学生の異文化接触体験：留学生に対するソーシャル・サポートとソーシャル・スキルおよび自己の成長を中心に 広島大学留学生センター紀要 6、 85-101

田中共子 1995b 在日外国人留学生による日本人との対人関係の困難に関する原因認知学生相談研究 16 (1)、 23-31

田中共子 1996 日本人学生による留学生への援助的役割における異文化接触体験一定性的研究の実際(23) 日本心理学会第60回大会発表論文集、 23

田中共子・藤原武弘 1992 在日外国人留学生の対人行動上の困難：異文化適応を促進するための日本のソーシャル・スキルの検討 社会心理学研究 7 (2)、 92-101

Tomoko Tanaka, Jiro Takai, Takaya Kohyama and Takehiro Fujihara 1994a Adjustment Patterns of International Students in Japan. International Journal of Intercultural Relations, 18 (1)、 55-75

Tomoko Tanaka, Jiro Takai, Takaya Kohyama, Hirofumi Minami and Takehiro Fujihara 1994b Social Networks of International Students in Japan: Perceived Social Support and Relationship Satisfaction. The Japanese Journal of Experimental Social Psychology, 34 (1)、 1-11

田中共子・高井次郎・神山貴弥・藤原武弘 1996 日本人学生のチューターとしての異文化接触体験：ソーシャル・スキルの実施とソーシャル・サポートの授受を中心に 異文化間教育学会第17回大会発表抄録、 126-127

Tomoko Tanaka, Jiro Takai, Takaya Kohyama, Hirofumi Minami and Takehiro Fujihara 1996 Effects of Social Support Networks on Cross-cultural Adjustment. Japanese Psychological Research, 39 (1) (in press)

八島智子・田中共子 1996 ソーシャル・スキル訓練を取り入れた英語教育 異文化間教育 10、 150-166

表1 質問項目と素集計結果

特に断りのない場合は、数字は有効回答人数、かっこ内は%。Mとある場合は平均値、SDは標準偏差を表した。

- Q1.性別           ①男 80(69.0)       ②女36(31.0)
- Q2.年齢           ①20才未満 0(0.0) ②20～24才 59(50.9) ③25～29才 41(35.3)  
④30～34才 11(9.5) ⑤35才以上 5(4.3)
- Q3.専攻           ①理科系 67(57.8) ②文科系 49(42.2)
- Q4.学籍           ①学部生 9(7.8) ②大学院(修士課程) 61(52.6) ③大学院(博士課程) 44(37.9)  
④研究生(学部卒業後) 0(0.0) ⑤研究生(修士課程修了後) 1(0.9) ⑥研究生(博士課程修了後) 1(0.9)
- Q5.広島大学に在籍して何年目になりますか。  
①1年目 4(3.4) ②2年目 9(7.8) ③3年目 10(8.6) ④4年目 10(8.6) ⑤5年目 23(19.8)  
⑥6年目 31(26.7) ⑦7年目 10(8.6) ⑧8年目 6(5.2) ⑨それ以上 13(11.2)
- Q6.居住形態 ①一人で 92(79.3) ②家族と 20(17.2) ③その他(友達と一緒に、など) 4(3.4)
- Q7.英語力 ①初級(日常会話も困難) 52(44.8) ②中級(日常会話程度) 53(45.7)  
③上級(英語で行われる授業についていける) 11(9.5)
- Q8.学生生活全体には、どのくらい満足していますか。  
①たいへん不満足 5(4.3) ②やや不満足 26(22.4) ③ふつう 42(36.2)  
④やや満足 30(25.9) ⑤たいへん満足 13(11.2)
- Q9.現在の健康状態 ①あまりよくない 7(6.0) ②ふつう 55(47.4) ③良好 54(46.6)
- Q10.あなたは今、どのくらい留学生とつきあいがありますか。  
①個人的に親しくしている友人がいる 55(47.8)  
②一般的な話をする相手はいるが、特に親しくはない 50(43.5)  
③挨拶する程度関係の人がいる 7(6.1)  
④話をしたことのある人はいるが、その後会うような関係ではない 2(1.7)



Q11. あなたは、A. 留学生に今、次のようなことをしていますか。また、B. 機会があったらしたいと思いますか。

A : ①まったくしていない ②あまりしていない ③ややしている ④かなりしている

B : ①まったくしたくない ②あまりしたくない ③ややしたい ④非常にしたい

	A				B			
	①	②	③	④	①	②	③	④
(1)勉強を一緒にしたり、教えたりする	16(13.9)	22(19.1)	50(43.5)	27(23.5)	1(1.1)	11(12.5)	46(52.3)	30(34.1)
	M=2.77 SD=0.97				M=3.19 SD=0.69			
(2)日本語・日本文化を教える	15(13.3)	27(23.9)	50(44.2)	21(18.6)	0(0.0)	10(11.8)	43(49.4)	34(39.1)
	M=2.68 SD=0.93				M=3.28 SD=0.66			
(3)相談のったり、励ましたりする	17(14.9)	29(25.4)	41(36.0)	27(23.7)	1(1.1)	14(15.7)	42(47.2)	32(36.0)
	M=2.68 SD=1.00				M=3.18 SD=0.73			
(4)一緒に楽しんだり出かけたりする	33(28.9)	33(28.9)	30(26.3)	18(15.8)	0(0.0)	16(18.2)	40(45.5)	32(36.4)
	M=2.29 SD=1.05				M=3.18 SD=0.72			
(5)物やお金を貸したり、あげたりする	54(47.4)	35(30.7)	17(14.9)	8(7.0)	21(24.1)	33(37.9)	23(26.4)	10(11.5)
	M=1.82 SD=0.94				M=3.25 SD=0.96			
(6)生活の情報を教えてあげる	19(16.5)	30(26.1)	50(43.5)	16(13.9)	1(1.1)	4(4.6)	52(59.8)	30(34.5)
	M=2.55 SD=0.93				M=3.28 SD=0.60			

Q12. あなたは、留学生とつきあうとき、留学生の文化圏での行動の仕方ややり方、ルールを、必要に応じて自分でも取り入れてやっていますか。

①まったくやらない 9(7.8) ②あまりやらない 36(31.0) ③やややる 58(50.0) ④非常にやる 13(11.2)

M=2.65 SD=0.78

Q13. もし、いろいろな国の人の考え方や行動の仕方、つきあい方を知るためのセミナーを留学生センターが実施したら、参加したいですか。

①参加したい 50(43.1) ②わからない 61(52.6) ③参加したくない 5(4.3)

Q14. あなたからみて、自分が留学生とうまくつきあいにいく理由があるとしたら、それは何でしょうか。次のことが、その理由としてどのくらいあてはまると思う(その通りだと思う)かを、答えてください。

①まったくあてはまらない ②あまりあてはまらない ③ややあてはまる ④非常にあてはまる

	①	②	③	④
(1)留学生は日本語があまりうまくないから	30(25.9)	42(36.2)	39(33.6)	5( 4.3)
	M=2.16 SD=0.86			
(2)自分は外国語（英語その他）があまりうまくないから	15(12.9)	28(24.1)	47(40.5)	26(22.4)
	M=2.72 SD=0.96			
(3)留学生は日本人の考え方や行動の仕方、ルールがよくわからないから	20(17.2)	51(44.0)	34(29.3)	11( 9.5)
	M=2.31 SD=0.87			
(4)自分は留学生の人達の考え方や行動の仕方、ルールをよくわからないから	16(13.8)	51(44.0)	36(31.0)	13(11.2)
	M=2.40 SD=0.86			
(5)留学生は日本社会のしくみや慣習をよく知らないから	23(19.8)	56(48.3)	29(25.0)	8( 6.9)
	M=2.19 SD=0.83			
(6)自分は留学生の本国の社会のしくみや慣習をよく知らないから	16(13.8)	51(44.0)	36(31.0)	13(11.2)
	M=2.40 SD=0.86			
(7)留学生は日本人にあまり関心がないから	50(43.1)	55(47.4)	9( 7.8)	2( 1.7)
	M=1.68 SD=0.69			
(8)自分は外国人にあまり関心がないから	52(44.8)	51(44.0)	10( 8.6)	3( 2.6)
	M=1.69 SD=0.74			
(9)留学生は日本人が好きでなかったり苦手だったりするから	46(39.7)	61(52.6)	8( 6.9)	1( 0.9)
	M=1.69 SD=0.64			
(10)自分は外国人が好きでなかったり苦手だったりするから	47(40.5)	55(47.4)	12(10.3)	2( 1.7)
	M=1.73 SD=0.71			
(11)留学生は忙しくてゆっくりつきあう暇がないから	20(17.2)	48(41.4)	41(35.3)	7( 6.0)
	M=2.30 SD=0.83			
(12)自分は忙しくてゆっくりつきあう暇がないから	17(14.7)	27(23.3)	47(40.5)	25(21.6)
	M=2.69 SD=0.97			
(13)留学生には、話のあう人や魅力的な人が少ないから	59(51.3)	38(33.0)	15(13.0)	3( 2.6)
	M=1.67 SD=0.80			
(14)相手が留学生でなくとも、自分は人づきあいが苦手だから	43(38.1)	40(35.4)	23(20.4)	7( 6.2)
	M=1.95 SD=0.91			

(15)その他：

書き込みなし 107(92.2)

書き込みあり 9(12.9)

・共有できる趣味がない。

- ・接触の機会があまりない。
- ・日本人が日本人同士で小グループを作ってその中で終始してしまう。
- ・留学生は留学生同士でかたまる。
- ・留学生が大学に来ない。
- ・留学生のほうに環境にとけこむ姿勢が希薄。
- ・相手は研究生で本格的な研究生活はまだなので、自分との共通性が少ない。
- ・留学目的が勉強以外のことにある。
- ・来日の目的が、お金か勉強か分からない。

Q15. あなたのチューター体験についてお尋ねします。

1. 活動内容は、どのようなことでしたか（あてはまるもの全てに○をつけてください）。

	あり	なし
①学内外の各種手続きの手助け	93(80.1)	23(19.8)
②住居探し、引っ越しの手伝い	32(27.6)	84(72.4)
③付近の案内、買い物などの付き添い	34(29.3)	82(70.7)
④通訳、翻訳	41(35.3)	75(64.7)
⑤専門分野の勉強の手助け	71(61.2)	45(38.8)
⑥話し相手	82(70.7)	34(29.3)
⑦日本語を教える・直す、日本語会話の練習相手	75(65.5)	41(35.3)
⑧日本の文化や習慣に関する質問に答える	71(61.2)	45(38.8)
⑨求める生活情報を探してあげる	49(42.2)	67(57.8)
⑩飲食やレジャーにつきあう	51(44.0)	65(56.0)
⑪その他：		

書き込みなし 111(95.7)

書き込みあり 5(4.3)

- ・学校行事などの連絡をしてあげる。
- ・担当教官との連絡の手助け。
- ・先生や他の学生が使う方言の説明。
- ・一緒にジョギングをする。
- ・一緒にパーティーをする。

2. やって良かったと思うことは、何ですか（あてはまるもの全てに○をつけてください）

い)。

	あり	なし
①食事・パーティー・レジャーなど楽しい体験	54(46.6)	62(53.4)
②外国語の習得	30(25.9)	86(74.1)
③外国の社会や文化について話を聞いたこと	88(75.9)	28(24.1)
④日本の社会や文化について再認識したこと	54(46.6)	62(53.4)
⑤自分のした援助が役に立った充実感	46(39.7)	70(60.3)
⑥忍耐・寛容・思いやりなど、自分の人格的成長	31(26.7)	85(73.2)

⑦その他：

書き込みなし 104(89.7)

書き込みあり 12(10.3)

- ・自分の体験に幅ができたこと。
- ・留学生が以前より身近に感じられ、異なる人種・民族に対して違和感がなくなったこと。
- ・新しい友人ができたこと。
- ・相手の国に旅行に行けること。
- ・自分の専門分野について、日本と相手国との比較ができたこと。
- ・一緒に議論をしながら実験できたこと。
- ・自分にとってもストレスの緩和になったこと。
- ・正しい日本語を使うよう気をつけるようになったこと。
- ・日本語について（特に漢字）の再勉強。
- ・自分も日本語についてよく分かるようになったこと。
- ・自分が日本語をいかにあいまいに使っていたかが、わかったこと。

3. 困ったこと、難しかったこと、やりにくかったことは、何ですか（あてはまるもの全てに○をつけてください）。

	あり	なし
①言葉の障害	62(53.4)	54(46.6)
②文化的な価値観や習慣の違い	38(32.8)	78(67.2)
③日本社会や学内のシステムに関する情報不足	33(28.4)	83(71.6)
④過度な依存や、難しい依頼をされること	22(19.0)	94(81.0)
⑤あてにされない、信用されないこと	7( 6.0)	109(94.0)
⑥年齢や専攻や家族構成など、自分と共通性が少ないこと	18(15.5)	98(84.5)

## ⑧その他：

書き込みなし 97(83.6)

書き込みあり 19(16.4)

- ・こちらがつい、いつも通りの話し方やスピードで話してしまうと、理解しきれないようで申し訳なかったこと。
- ・留学生が自分のカラに閉じ込もってしまい、あまり話もせず研究室で孤立してしまったこと。
- ・留学生だけで固まってしまい、入り込めなくなったこと。
- ・勝手に行動されること。
- ・その留学生は学業以外の仕事に忙しく、研究活動に支障が出ていたこと。
- ・留学生が遠方に住んでいて、学校にほとんど来なかったこと。
- ・異性という目で見られること。
- ・研究室では相当の語学・研究指導を任されたが、この謝金では明らかに加重負担であり、国の方針で日本語力に無理のある留学生受け入れをしたのは大学だから、実際に必要なだけの専門の日本語指導者を配さないのは大学の日本語教育体制の不備といえる。
- ・来日間もない時の諸手続きに関して、こちらも十分に把握できておらず説明にてまどった。
- ・言葉の分かる母国語圏の人たちをまず頼り、後からこちらに聞くことが多く、しかたないとは思いますが、もう少し心を開いてくれてもいいのではと思った。
- ・電話をかけてこないの、あてにされず信用されない感じがしたこと。
- ・相手のほうが上級生なので、あまり勉強の力になれなかったこと。
- ・学部が違ったこと。
- ・時間があまりとれなかったこと。
- ・自分が忙しすぎたこと。
- ・お互いに忙しかったこと。
- ・こちらが忙しそうだと、留学生が遠慮してしまうこと。
- ・互いの遠慮。

Q16. 次の1～5は、外国人から見て特徴的な日本人の行動の例、6は外国人が日本人とコミュニケーションするときの工夫の例として、あげられることがあります。

A：こうした行動を、あなたはどのくらい留学生にしてほしいと思いますか。

- ①まったくしてほしくない ②あまりしてほしくない ③ややしてほしい ④かなりしてほしい ⑤必ずしてほしい

	①	②	③	④	⑤
1.(1)相手が気を悪くしそうなことは、あまり直接的に言わず間接的に表現する。	22(19.6)	41(36.6)	42(37.5)	5( 4.5)	2( 1.8)
	M=2.32 SD=0.90				
(2)自分のしたいことや言いたいことだけを一方的に言わず、人の意見もよく聞く。	2( 1.8)	7( 6.2)	47(41.6)	33(29.2)	24(21.2)
	M=3.62 SD=0.95				
(3)相手の本当の気持ちとか、相手がして欲しいと思っていることを、その人が直接言葉に出さなくても、自分から察する。	11( 9.8)	43(38.4)	47(42.0)	6( 5.4)	5( 4.5)
	M=2.56 SD=0.91				
(4)さそいやすすめをすぐ受け取らないで、遠慮をする。	42(37.5)	62(55.4)	8( 7.1)	0( 0.0)	0( 0.0)
	M=1.70 SD=0.60				
(5)ほめられた時や、自分の能力について話すときに、謙遜をする	27(24.1)	67(59.8)	18(16.1)	0( 0.0)	0( 0.0)
	M=1.92 SD=0.63				
2.(1)挨拶をする時は、お辞儀をして、「よろしく」と言う。	23(20.7)	42(37.8)	35(31.5)	6( 5.4)	5( 4.5)
	M=2.35 SD=1.01				
(2)お酒を互いについですすめあい、楽しくさわぎながら、ふだんより正直な話をするといった、お酒の酔いを使ったコミュニケーションをよくする。	23(20.9)	27(24.5)	44(40.0)	11(10.0)	5( 4.5)
	M=2.53 SD=1.07				
(3)先生や先輩など、目上の人への態度や言葉使いに気をつける。	4( 3.6)	24(21.6)	60(54.1)	17(15.3)	6( 5.4)
	M=2.97 SD=0.86				
(4)本気ではないのに、社交辞令で人を自宅へ招待することがある。	37(34.3)	60(55.6)	10( 9.3)	0( 0.0)	1( 0.9)
	M=1.78 SD=0.69				
(5)お礼の気持ちを表すために、店で買った物を贈る。	40(36.4)	55(50.0)	14(12.7)	0( 0.0)	1( 0.9)
	M=1.79 SD=0.73				
3.(1)感情表現や、身振りや、笑い声を押えがちである。	35(31.3)	68(60.7)	9( 8.0)	0( 0.0)	0( 0.0)
	M=1.77 SD=0.58				
(2)人を呼ぶときは、名前を呼びすてたり「あなた」と呼んだりせずに、姓に「さん」をつけたり、「先生」などそのひとの地位で呼んだりする。	9( 8.1)	31(27.9)	52(46.8)	12(10.8)	7( 6.3)
	M=2.79 SD=0.96				
4.(1)異性の人には、一対一のデートにいきなり誘わずに、まずは友達になろうとする。	10( 9.2)	22(20.2)	56(51.4)	16(14.7)	5( 4.6)
	M=2.85 SD=0.94				
(2)男性は女性に、乗り物にのる順番を譲らない、ドアを開けないなど、レディーファストはやらない。女性は、男性にそれらの行動を期待しない。(してほしければ①、②を選ぶ)	11(10.4)	35(33.0)	34(32.1)	17(16.0)	9( 8.5)
	M=2.79 SD=1.10				

(3)異性の友達とのデートだけではなく、同性の友達とも映画や食事に出かけて楽しむ。	1( 0.9) 9( 8.4) 54(50.5) 35(32.7) 8(7.5)	M=3.37 SD=0.78
5.(1)集団で行動するときにはみんなに合わせて同じようにし、一人だけで違うことをしないようにする。	8( 7.2) 25(22.5) 46(41.4) 22(19.8) 10( 9.0)	M=3.01 SD=1.04
(2)自分一人の考えで物事を決めずに、できるだけまわりの人の意見を聞いて決める。	5( 4.5) 6( 5.4) 60(53.6) 30(26.8) 11( 9.8)	M=3.32 SD=0.89
6.(1)日本人と話すときは、たとえ下手でも日本語で通す。	4( 3.6) 16(14.5) 57(51.8) 13(11.8) 20(18.2)	M=3.26 SD=1.04
(2)日本人との間に不快なことや誤解、疑問があったときにはきちんと話し合う。	0( 0.0) 1( 0.9) 22(19.3) 41(36.0) 50(43.9)	M=4.23 SD=0.79
(3)声をかけたりどこかへさそったりして、自分から積極的に日本人に近づく。	0( 0.0) 5( 4.3) 44(38.3) 49(42.6) 17(14.8)	M=3.68 SD=0.78
(4)自分の国のことを日本人によく説明して、理解してもらうよう努力する。	0(0.0) 4( 3.5) 42(37.2) 43(38.1) 24(21.2)	M=3.77 SD=0.82

B：留学生がこれをしてくれないとかなり嫌だ、困ると思うものを、上記から選び、順に3つまで番号をあげてください。

C：あなた自身にとっても難しい、うまくできないと思うものを、上記から選び、順に3つまで番号をあげてください。(6は、「日本人」を「外国人」と置き換えて、考えてください)

…それぞれ○番目としてあげた人数を記載

	B			C		
	1番目	2番目	3番目	1番目	2番目	3番目
1.(1)相手が気を悪くしそうなことは、あまり直接的に言わず間接的に表現する。	1	0	4	3	1	2
(2)自分のしたいことや言いたいことだけを一方的に言わず、人の意見もよく聞く。	6	9	14	1	2	2
(3)相手の本当の気持ちとか、相手がして欲しいと思っていることを、その人が直接言葉に出さなくても、自分から察する。	0	2	1	7	5	5
(4)さそいやすすめをすぐ受け取らないで、遠慮をする。	0	0	1	1	0	1
(5)ほめられた時や、自分の能力について話すときに、謙遜をする。	0	0	2	2	0	0

2.(1)挨拶をする時は、お辞儀をして、「よろしく」と言う。	1	0	0	1	1	1
(2)お酒を互いについですすめあい、楽しくさわぎながら、ふだんより正直な話をするといった、お酒の酔いを使ったコミュニケーションをよくする。	2	1	0	1	4	3
(3)先生や先輩など、目上の人への態度や言葉使いに気をつける。	2	3	1	2	1	1
(4)本気ではないのに、社交辞令で人を自宅へ招待することがある。	1	3	0	2	1	6
(5)お礼の気持ちを表すために、店で買った物を贈る。	0	1	1	4	2	2
3.(1)感情表現や、身振りや、笑い声を押えがちである。	0	0	0	2	2	1
(2)人を呼ぶときは、名前を呼びすてたり「あなた」と呼んだりせずに、姓に「さん」をつけたり、「先生」などそのひとの地位で呼んだりする。	5	8	1	1	1	0
4.(1)異性の人には、一対一のデートにいきなり誘わずに、まずは友達になろうとする。	1	1	3	0	3	1
(2)男性は女性に、乗り物にのる順番を譲らない、ドアを開けないなど、レディーファストはやらない。女性は、男性にそれらの行動を期待しない。(してほしければ①、②を選ぶ)	1	0	0	1	3	3
(3)異性の友達とのデートだけではなく、同性の友達とも映画や食事に出かけて楽しむ。	2	2	0	2	1	1
5.(1)集団で行動するときにはみんなに合わせて同じようにし、一人だけで違うことをしないようにする。	2	3	3	4	3	4
(2)自分一人の考えで物事を決めずに、できるだけまわりの人の意見を聞いて決める。	7	4	6	4	2	1
6.(1)日本人と話すときは、たとえ下手でも日本語で通す。	4	2	12	5	10	20
(2)日本人との間に不快なことや誤解、疑問があったときにはきちんと話し合う。	8	14	27	5	9	9



- (3)声をかけたりどこかへさそったりして、自分から積極的に日本人に近づく。 9 17 1 13 16 14
- (4)自分の国のことを日本人によく説明して、理解してもらうよう努力する。 12 4 3 4 5 4

Q17. 今日本にいる人で、あなたが必要なとき助けてくれて、頼りになる人は何人くらいいますか。

①0人 3(2.7) ②1~5人 37(33.3) ③6~10人 41(36.9) ④11~15人 12(10.8) ⑤16人以上 18(16.2)

Q18. 今日本にいる人で、あなたにとって大切な関わりのある人には、どんな人がいますか。主な関係を最大10人、思いっくだけあげてください。そしてその人たちそれぞれについて、あてはまる番号に○をしてください。

		合計人数	
		M	SD
1. その人の性別	①同性	4.74	3.04
	②異性	1.84	1.49
2. 年齢	①19才以下	0.18	0.98
	②20-29才	3.59	2.86
	③30-39才	1.09	1.70
	④40才以上	1.59	1.47
3. 国籍	①日本人	5.88	3.44
	②外国人	0.52	0.86
4. 関係	①指導教官	0.40	0.63
	②大学教職員	1.21	1.82
	③同じ研究室の学生	0.16	0.36
	④チューターした留学生	0.49	1.08
	⑤他の学生	1.16	1.64
	⑥家族	1.16	1.29
	⑦親戚	1.15	0.58
	⑧他の友人・知人	1.76	1.80

5. 次のことへの助けを期待できるか

①できない ②どちらともいえない ③できる

	合計点		平均点	
	M	SD	M	SD
1. 外国語	12.51	5.88	1.72	0.47
2. 外国の文化、習慣	12.14	5.90	1.69	0.52
3. 勉強、研究	15.40	7.36	2.09	0.51
4. 相談、はげまし	19.11	8.69	2.63	0.44
5. 一緒に楽しむ・出かける	17.85	8.29	2.52	0.47
6. 物、お金	14.33	7.42	1.97	0.54
7. 生活の情報	17.77	8.06	2.46	0.43

6. その人との関係の満足度

①たいへん不満足 ②やや不満足 ③やや満足 ④たいへん満足

合計点 M=26.21 SD=11.63 平均点 M=3.62 SD=0.41

7. あなたとその人のどちらがより相手を頼りにしているか

	M	SD
①あなた	2.09	2.09
②ほぼ同じ	4.12	2.95
③その人	0.33	0.85

8. 接する回数		M	SD
①毎日		1.47	2.00
②～週1回以上		1.96	2.27
③～月1回以上		1.10	1.74
④～3カ月に1回以上		1.03	1.47
⑤それ以下		1.01	1.49

あげられた人数 M=6.58 SD=3.53

Q19. あなたの経験から考えて、どうしたら留学生とうまく交流できると思いますか。

書き込みなし 12(10.3)

書き込みあり 104(89.7) (…記述内容は表2)

・結果とお礼のお送り先： 記載なし 43(37.1) 記載あり 73(62.9)

## 表2 留学生との交流の工夫・心がけに関する自由記述

「Q19.あなたの経験から考えて、どうしたら留学生とうまく交流できると思いますか」という設問に対する記述を、部分的に修正・簡略化した。内容のまとまりに応じて番号を付した。

### (1)話し合い

- よく話し合って理解し合い、お互いを大切にする。
- 不快なことや誤解、疑問があったときには話をする。
- 誤解は必ず話し合うこと。
- 相手が理解できるまで話し合う。
- できるだけ相手のことを日本人的に考える。理解されないことは言ってもらい、説明し、理解を求める。
- 言葉の問題があっても、なんとかして意見を通じさせるように工夫すること。
- 留学生自身の日本語能力の上達と、衝突をおそれずにお互いの考えをとことん話し合うことが大事だ。
- 笑って話し合う。

### (2)率直さ

- 留学生に心から信頼されること。互いがはっきりと意見や気持ちを述べたり、打ち明けたりすることが必要。
- 閉鎖的にならずに、思ったことや自分の気持ちなどを素直に相手に伝え、相手の話すこともよく聞く。自己開示（自分のことをすすんで話すこと）は重要だ。
- 相手の気持ちを開かせる以前に、自分の気持ちを開くことが大事だと思う。
- 本音で話しをすること。酒とかを飲むのもよい。
- あまり隠し事をしないようにした。思った通り話す。そうすれば、分かってくれるのではないかと思う。
- 自分に正直になる。
- 両者共に、いいところを見せようとしなくてよい。

### (3)接触の機会

#### 1)機会の増加

- まず接する機会を増やす。
- 接触する機会を増やす。無理をせず、友人としてつき合うこと。

- ・できるだけ会う機会を増やすことが基本だと思う。
- ・お互いをよく理解する機会を増やすこと。
- ・何回も会う機会を持つ。通じなくても話しかける。一緒に何かを作ったりやったりする。
- ・何回も顔を合わせる事がまず大切ではないかと思う。留学生の方を不安にさせないように、こちらはいつも明るく接するべきだと思う。
- ・互いに遠慮しない。顔を合わせる時間を多く作る。
- ・確保できる時間をできるだけ増やし、週に最低二回以上会って話しができたらいいと思う。

## 2) 機会の設定

- ・留学生と交流する機会（パーティ等）を多く行う。
- ・留学生と交流を持つ機会があれば良い。留学生と日本人学生の希望者として、パーティーなどをする。
- ・日本人の中にはとにかく人との交わりを嫌がる人もいるので、何か定期的なパーティなどして、強制的にでも参加させていったらよいと思う。
- ・交流の場をもっと増やすこと。例えば授業を一緒にとる、一緒にクラブ活動をするなど。
- ・毎日会えるようにする。大学のシステムとして、もっと留学生と一般の日本人学生との交流の場を作るようにしてほしい。
- ・学内の留学生関係の機関の存在を、もっと多くの学生が知った方がいいと思う。留学生と交流したいと思っている学生は結構たくさんいる。

## 3) 接触の日常化

- ・毎日接して意見を言い合う（日本語と英語を半々に）。
- ・毎日、一回でもいいから会話をする。自分のグループ内へ積極的に誘う。
- ・とにかく毎日大学に来るようにしてほしい。大学のある都市に住んでもらうほうがよい。
- ・研究室によく来ることは、絶対に必要。初めのうちは、互いに声がかげづらいかもしれないが、毎日来て勉強しているうちにきっと話ができるようになる。留学生は、まずはみんなに顔と名前を覚えてもらい、自分も日本人の顔と名前を覚えるようにするとよい。
- ・必要がなくても顔を合わす機会を増やす。例えば、院生室が同じだったら毎日顔を合わすので、いつのまにかお互いに仲良くなれる。
- ・定期的に会って、日常的なことからよくコミュニケーションをとること。たまには出かけて一緒に楽しむ時間が持てるとよいだろう。

## 4) 活動への参加

- ・大勢でスポーツやレジャーを楽しむとよい。

- ・キャンプなどの野外活動で、寝食を共にする。
- ・会って話しをするだけでなく、一緒に食事をしたり、どこかへ出かけたり、ということを重ねるうちに、うまく交流できるようになる。いろんな話しもできるようになる。
- ・私のところは研究室での活動が学生生活の主体となりがちで、行事も多い。従って、研究室の活動に留学生も積極的に参加してはどうかと思う。やはり、コミュニケーションの機会を多く持つことが大切だ。
- ・やはり同性の日本人の友人を作り、学外でさまざまな活動をしてほしい。

### (3)積極性

#### 1)留学生からの話しかけ

- ・留学生の人は、積極的に何でも尋ねたり話したりしてほしい。
- ・日本語の練習と文化の交流を兼ねる気持ちで、留学生の方から話しかけてもらう。
- ・留学生同士の会話よりも、研究室内の会話を増やした方が日本語が上達すると考えて、努力してみたい。
- ・自分はあまり自分から人に接していかない方なので、留学生の方から、日常会話などをしかけてきてくれたら助かる。私の担当したさる国の学生とは、思考パターンが異なっていて、どうも意志疎通に苦労した。

#### 2)日本人からの話しかけ

- ・自分から積極的に会話する。
- ・積極的に話しかける。
- ・何でもいいからどんどん話しかけて、心を開いてもらう。
- ・ものおじせず、こちらから話しかけてみる。
- ・こちらから話しかけていく。最低限の英語による日常会話能力を身につける。
- ・心から本気で接する。自分から声をかけたりする。
- ・日本人側から声をかける。交流したい気持ちがあれば、別に難しくないと思う。
- ・日本人が留学生に対して敬遠せずに、積極的に話しかける。
- ・まず日本人から気さくに話しかけることであろう。留学生の中には、学外にも気軽につき合える友人が多いような人がいる。そうした相手の日本人にもっと学んでどうか。
- ・自分から進んでコミュニケーションをとろうとすること。

#### 3)丹念さ

- ・よくあいさつをしたり、とりとめのない雑談をしたりする。
- ・日頃からとにかく話をする。

- ・こわがらずに積極的にコミュニケーションをはかる。

#### 4)働きかけ

- ・積極性を持つこと。
- ・お互いが日本人同士とか留学生同士でかたまらず、積極的に働きかける。相手の出方を伺うのではなく、まず自分から自分の心理的な壁を取り除いて相談を持ちかけてみたり、相手が自分を必要としてくれる時には、「その時」すぐに対応する。後回しにしない。

### (4)文化理解

#### 1)日本文化

- ・日本の文化をよく知ってもらおう。また、よく教える。
- ・言葉の障害は大きいけど、重要なことは、日本に留学に来た外国人にもっと日本社会、特にその大学のシステム、習慣等を理解してもらおうことだ。
- ・留学生が、まずこちらの生活へ飛び込んで来る姿勢を持つことがまず必要なことだと考える。どうも自国の価値観に固執しがちのようだった。

#### 2)相手文化

- ・相手の国の文化、習慣などを興味を持って聴くこと。
- ・その人の国の文化に興味を持つ。
- ・相手のことに興味や関心を持つことが大切だと思う。
- ・その人の国の慣習、人間関係のマナーについて知る。
- ・相手の文化・慣習などを、いろいろ話す中で感じとれるならば、より親しくなっていけると思う。
- ・多く会話をする。その人の文化や習慣などをよく知っておく。

#### 3)相互理解

- ・お互いの事全て（文化、生活、政治なども含めて）に関して、理解する努力を常に保つようにすると、信頼関係が強くなる。
- ・お互いに持っている文化が違うということを理解しておく。あとは日本人の場合と同様につきあう。
- ・お互いに相手を理解しようとする努力。
- ・お互いの考えを理解し合うこと。
- ・留学生は言葉が違うだけで、お互いに理解し合えればうまく交流できると考えること。

#### 4) 共通性

- 文化習慣の違いは解消すべきでないものと前提し、それにもかかわらず存在する共通点を探す。

#### 5) 調整

- 「さん」「先生」、呼びすてなどの呼び方は、場合に応じて使い分ける。
- お互いが歩み寄ること。

### (5) 同一感

#### 1) 留学生への同一視

- “留学生”と特別扱いせず、日本人と同様に接する。
- 留学生という言葉自体をなくして、一般学生と同等に扱えばいいと思う。
- 特別視しない。
- 日本人と同じように接し、特別視しない。チューターも学び、留学生も学ぶ。
- 日本人と留学生の区別なく、等しく友人として考えていくなら、うまく交流できるはずだ。
- 同じ学生としての立場からは、あまり特別な存在として接したりしないようにすること。
- 肩に力を入れないで、自然に、日本人と同様につき合うこと。
- 肩に力を入れないで、日本人の友達と接するのと同じようにすればいいと思う。“きっかけさえあれば”、留学生の友達もたくさんできると思う。ただ生活に余裕(お互いの時間的、経済的なゆとり)がないと、少し難しいだろう。接触の回数や時間が長くなればなるほど、仲は深まると思う。本当の信頼関係ができるまでには時間がかかるものだ。

#### 2) 日本人への同一視

- 留学生を見ていると、どうも日本人と接する時、少し間隔をおいているようだから、もっと気楽に普通の友達同士のように接してくれれば、うまく交流ができるのではないかと思う。

#### 3) 普遍性

- どの文化にも対人関係のベーシックなものがあるはず(例えば誠実さなど)。それらを確認しながら接すること。表面的な違いにまどわされないようにする。
- 生まれ育った国や髪、肌の色が違って、同じ人間なんだという気持ちを持つこと。

#### 4) 個人としての視点

- ・留学生にもいろいろな人がいるから、合う人もいればそうでない人もいるだろう。結局は人と人との関係になるのではないだろうか。
- ・日本人か外国人かの差よりも、人間一人一人の個人差の方が大きい事がよくある、ということを経験する。文化の違いも個人間の考え方・感じ方などの違いとみなすことは可能だ。
- ・「我々」（日本人）と「あなたたち」（留学生）」という関係ではなく、「私とあなた」の1対1の関係を築くこと。

## (6)規範性

### 1) 遵守すべき規範

- ・研究室の規則にきちんと従うこと。研究室において、留学の目的をはっきりさせること。
- ・学内のルール（一般学生に対するものも、留学生に対するものも含めて）の明確化。

### 2) 目的意識

- ・何が目的で留学しているのかを、互いにきちんと認識していると対応しやすい。
- ・留学生の人に“何故日本に来たのか？”ということを経験してもらおう。

## (7)役割遂行

### 1) 範囲の明示

- ・チューターとしては、自分は何をどこまで助けられるかを明示すること。過度に期待したり、期待されないようにすること。
- ・社交辞令を並べていては、留学生の方との付き合いは長続きしない。やはり、できることはできる、できないことはできないとはっきり言う必要がある。

### 2) 援助の使命感

- ・留学生のためにできる限りの援助をしてあげることが、日本人学生の義務だと思うことも必要だと思う。

### 3) 苦勞への共感

- ・自分が国際交流の重要性を認識する。留学生の苦勞等を考え、思いやりの心を持ち接する。
- ・日本に留学していることの苦勞について、こちらが思いをはせること。体験的に言って、これは大切なことだった。



## (8)語学

### 1)英語

- 英語の教育方法を変えて、もっと日常会話ができるような環境をつくり、日本人がもっと語学力をあげておくとよいだろう。
- 日本人の人が留学生と接する理由に、外国の文化、習慣を学ぶこと以外に、語学の勉強がしたいというもあるから、せめてこっちが外国語で話しかけた時くらいは、留学生は外国語で返して欲しいという希望もある。

### 2)相手言語

- 留学生は日本語、日本人は英語がある程度できないと、交流は不可能ではないかと思った。少なくとも長続きはしないように思う。

## (9)対人関係上の心がけ

### 1)基本的要素

- 人間としての誠実さが基本。
- お互いを思いやる気持ちがあれば、うまくいくと思う。
- 根気よくつきあうこと。

### 2)距離感

- 相手をよく知るためには、ある程度プライバシーに踏み入ることも必要になる。
- 必要以上にプライバシーにかかわらないこと。
- お互いの生活は尊重して、暇なときは一緒に楽しく過ごす。
- 自分は異性（男の人）の担当だったが、同性だったらもっと一緒に行動できたかもしれないと思う。
- 留学生と自分以外の人たちとの関係（交遊関係等）をよく見てつきあうことが大事だと思う。